

# 東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10  
東京労働会館6F

tel03-5395-3165 fax03-3946-6823

東京社保協

検索



## 憲法25条を守り生かそう中央行動



「憲法25条を守り活かそう」中央行動・集会在、10月25日に日比谷野外音楽堂で開催され全国から2800人が参加しました。

集会では、生活保護問題対策全国会議代表幹事の尾藤廣喜弁護士が基調報告を行い、安倍政権による社会保障切り捨てや格差・貧困拡大のもとで「あらゆる人々が生きづらさを強いられている」とのべ、25条を実質化していく上で、つながりを広げることが必要と訴えました。

この行動・集会の呼びかけ人の伊藤真美医師、井上英夫金沢大学名誉教授、竹下義樹弁護士があいさつを行いました。



これを受け、生活保護基準の引き下げの生活実態や年金削減問題、75歳以上2割負担化はやめよ、保育労働者の深刻な人

材不足問題、障害者65歳問題の解消や都立病院の独法化に反対する取り組み、福祉や介護現場からの訴えなどが次々と報告されました。また、報告の合間に厚労省に向かって、「憲法25条を守り、活かそう」のプラカードによるアピールも行いました。

集会終了後、集会参加者による厚労省前のアピール行動を実施しました。



## 憲法・いのち・守る10.11国民集会



10月11日、社会保障の拡充や医師・看護師、介護職員などの大幅増員、憲法改悪阻止などを求

めて「憲法・いのち・社会保障まもる国民集会」が日比谷野音で開催されました。

この集会は、保団連、日本医労連、全日本民医連、中央社保協など10団体で作る実行委員会が主催したもので、全国から3700人が集まり、日本医師会長や日本歯科医師会長などが賛同メッセージを寄せました。

集会では、認知症の人と家族の会や全国医師ユニオンなどから訴えが行われ、共産党や立憲民主党の国会議員から連帯のあいさつが行われました。

集会終了後、「軍事費を削って社会保障に回せ」などのシュプレヒコールを行いながら、銀座パレードを行いました。

# 各地域・団体の取り組み

## 中野なんでも相談



9月27日、「中野なんでも相談実行委員会」は通算93回目となる「なんでも相談会」を中野駅北口広場で開催しました。

急激に冷えて寒い日でしたが、健康相談が5件、生活相談が2件、法律相談が2件ありました。また、この相談会には弁護士、区議など25人が対応しました。

相談では、40代の男性が「両親からの虐待や精神科強制入院などを経て、※つくろいファンドとつながっている。来月から一人暮らしの予定だが、中卒のためもう一度勉強をしたい」との相談がありました。「当面、引っ越し先で生活のリズムをつかむことを優先してみても」とアドバイスしました。

※つくろい東京ファンドは、2014年6月に「市民の力でセーフティネットのほころびを修繕しよう」を合言葉に、東京都内で生活困窮者の支援活動を行ってきた複数の団体メンバーが集まり設置されました。中野区内にはシェルター江古田にカフェがあります。なお代表理事には稲葉剛さんがなっています。

(実行委員会ニュースより)

## 府中社保協

府中社保協は、長年の課題であった待望の「社保協ニュース」を発行することになりました。

ニュースの発行に寄せて、会長代理の武田正實さんは、「社保協ニュースが、社会保障拡充を求

める各団体・個人の声の広場になって、府中社保協運動の発展の強力なエンジンになっていくことは間違いありません。ともに頑張りましょう」と期待を寄せました。

6月28日、府中社保協第11回社保学校を開催し、三多摩福祉会の中山幸子さんを講師に「介護」問題の学習会を開催しました。



講演では、2000年に介護保険制度が開始されましたが、2006年、2014年には大きな制度改悪が行われ、介護保険はますます使いにくい制度となり、制度崩壊の一途となっていること。また、2014年の制度改悪で2015年から「新総合事業」が開始され、これまで寝たきり防止で介護予防が大事と強調してきたのに、要支援1・2の訪問・通所介護を保険給付から除外し、自治体の事業に移行したこと。など、制度開始から現在までの経過をふまえて講演を行いました。最後に、介護保険制度の目的は、介護の社会化であり、現在の方向性は「保険あって介護なし」の状況となっており、みなさんの力でこの流れを変えましょうと結びました。

9月3日には、国保問題で相川和義東京社保協事務局次長を講師に第12回社保学校を開催しました。



府中市は、本年度の保険料を据え置きにしながら、今行っている一般会計からの繰り入れを削減してゼロにするために、6回に分けて各年度保険料(税)の値上げを、東京都の標準保険料率を参考にして進めようとしています。

市は、国保料(税)の設定に当たっては、国保の成り立ちに逆行する「相互扶助」「助け合い」の強調を止め、社会保障としての施策充実の役割を果たすこと。国庫負担の増額を求め、一般会計からの繰り入れを継続させ、子どもの保険料をはじめ、保険料の軽減をはかることを市の求めていることが重要と話されました。

(府中社保協ニュースより)



# 年金フェスタ・一揆2018



全日本年金者組合は10月19日、「年金フェスタ・一揆2018」を日比谷野外音楽堂で開催しました。

主催者あいさつに立った金子民夫委員長は、

「年金引き下げのな、最低保障年金制度を作れという声を広げ、国民的要求に押し上げよう」「国民の皆さんとともに、国政を変え、若い人も高齢者も安心できる年金制度を実現しよう」と訴えました。

集会では、中央社保協の山口一秀事務局長と全生連西野武事務局長、日本共産党畑野君枝衆院議員が来賓あいさつを行い、社民党福島瑞穂参院議員、沖縄の風の糸数慶子参院議員がメッセージを寄せました。集会後、参加者は銀座までパレードを行いました。

# 新生存権原告団結成総会

10月2日（火）、けんせつプラザ東京において新生存権裁判東京原告団の結成総会を開催し、原告7人を含め弁護士・支援者など57人が参加し

ました。

石黒之俐子支える会幹事の司会で進められ、椎橋みさ子代表委員（東京自治労連副委員長）が、「知恵出し、励ましながら地域で最低生活を守るよう一緒に進めましょう」と主催者あいさつ。宇都宮健児弁護士団長が、「29都道府県1000人の原告が裁判でたたかっています。財政難と言って切り下げを行い、国の責任を果たしていない。人間らしい生活を取り戻すたたかいです。弁護士としても勝までたたかっていく」とあいさつしました。

7名の原告が紹介され、原告団長に八木メイさん（調布）副団長に木村良太さん（中野）神馬幸悦さん（立川）が確認され、参加した原告からもそれぞれたたかう決意が話されました。

寺川慎二事務局長が経過報告を行い、東京土建、東京地評、東京自治労連などから一緒にたたかう決意が出されました。また、墨田・町田地域の支える会からも報告が行われました。



最後に、新生存権裁判を勝利するまでたたかう決意を全体で確認し終了しました。



# 「社会保障」誌の購読を

「資料と解説」が豊富で、激動する情勢や社会保障制度がよくわかる！役に立つ！  
学習や運動にぜひご購読を

- 定期購読（年6回）  
3000円（送料別）  
1部500円（送料別）
  - 申込みは東京社保協へ  
TEL03-5395-3165  
FAX03-3946-6823
- \*ホームページからも注文できます



## 巣鴨地蔵通り宣伝行動



10月14日、東京社保協・中央社保協が共催す

る「4の日」宣伝行動が、巣鴨地蔵通り商店街入口で11時～13時の2時間行われました。

この行動には、全体で32人、東京社保協26人（東京土建20人）、中央社保協6人が参加して署名・宣伝行動を行いました。

当日は、10月25日に日比谷野音で開催する「憲法25条を守りいかそう集会」と11月11日に行う「介護・認知症なんでも電話相談会」の宣伝もあわせて行いました。



## 2018年滞納処分・差押問題 東日本学習交流集会

**日時** 11月11日(日)11時～

**会場** けんせつプラザ東京 資料代500円

**主催:東京社保協 共催:中央社保協**

## 「4の日」定例宣伝行動

・11月14日(水)12時～13時  
巣鴨駅

・12月14日(金)12時～13時  
巣鴨駅

**主催:東京社保協・中央社保協**

住民の願いにもとづく  
地域医療の充実を

## 地域医療を守る全国交流集会

**日時** 11月23日(金)10時～16時半

**会場** 東京ビッグサイト会議棟

地域医療をめぐるシンポジウム  
10時15分～12時半  
問題提起・特別報告・交流  
13時半～16時半

**主催:集会実行委員会**

憲法を守り、いかし、地方  
自治がいきるまち 東京を

## 東京地方自治研究集会

**日時** 12月9日(日)9時半～16時半

**会場** 明治大学(駿河台)リバティータワー

9時半～ 全体会  
記念講演:岡田知弘氏  
京都大学大学院教授  
13時～ 8分科会・1講座

**主催:集会実行委員会**